



<いわき選手権大会で奮闘>

1月12日(土)、13日(日)に、いわき総合バスケットボール選手権大会が、市内の中学校を会場に行われ、小川中学校男女バスケットボール部が参加しました。

男子は2回戦から登場し、勿来一中と対戦しました。接戦の末に勝利し、3回戦に平二中と対戦しました。平二中は優勝候補の一角で強敵でした。最後まで戦い抜きましたが、惜しくも敗れました。明後日の20日(日)、県大会出場をかけて内郷二中と対戦します。是非とも県大会出場を勝ち取ってほしいと思います。女子は1回戦、泉中と対戦しました。前半はリードして終盤まで接戦でしたが、残念ながら敗れました。しかし、泉中と互角の試合を展開できたことは、今後の糧となると思います。

寒さが一番厳しい時期ですが、各部とも春に向けて、練習に励んでいます。

<スプリングコンテストを実施>

今週の火・水曜日の1・2年生の英語の時間に、スプリングコンテストを実施しました。これは、英語の語彙力(単語や慣用句など)を向上させることを目的に、英語科で企画・実施したものです。出題内容は、冬休みの課題として事前に印刷・配付され、冬休み中の学習の成果を問う形で実施されました。

中学校3年間で習得すべき単語・慣用句等は、1200程度とされています。今回は、その内の100問でした。今回のコンテストをきっかけに、英語の語彙力を身に付ける学習を継続して行ってほしいと思います。漢字と同じで、書く練習をしなければ書けなくなります。使わない筋肉が衰えていくのと同じです。"継続は力、です。"

<新入生説明会を実施>

今週の17日(木)に、来年度に小川中に入学予定の児童・保護者を対象に説明会を実施しました。

体育館での日程説明の後、5校時の授業参観(1年は数学・体育、2年は美術・英語、3年は社会)を行い、その後、体育館に戻り、中学校生活についての校長講話、生徒会役員による全体説明、生徒指導担当教員からの学校生活の説明、事務担当職員からの購入物品の説明を行いました。最後に部活動紹介として、各部代表生徒による活動の紹介を行いました。

児童たちは少し緊張した面持ちでしたが、来年度の始まりが間近に迫っていることを感じる機会となりました。



生徒会による全体説明

<県立高校I期選抜の出願>

今週の18日(金)に、県立高校I期選抜試験の出願を行いました。22日(火)までが出願のため、全体の出願者数や倍率については、22日(火)の夕方くらいの発表になると思います。1月31日(木)、2/1(金)に各高校で面接等の試験が行われ2月5日(火)に各高校から中学校に合格内定通知があります。このI期選抜は今回で最後となります。現中学2年生の入試からは、受験者のすべてが5教科の筆記試験を行うこととなります(その上で、一般選抜か特色選抜かを選択します)。

新しい入試制度については、2月8日(金)に2学年の保護者を対象に行われる修学旅行説明会の際に、その概要の説明を行います。

<町内一周駅伝競走大会に参加>

明後日の20日(日)に、毎年恒例の小川町内一周駅伝競走大会が開催されます。中学校からは、特設駅伝部男子1チームとハンドボール部2チームの、計3チームが参加します。また、町内各地区のメンバーとして参加する生徒もいます。

8:45に公民館で開会式を行い、9:50に中学校をスタートします。元気いっぱいの走りを期待しています。

<次年度の予定について>

現在、平成31年度の教育課程の編成を進めているところですが、次年度は、5月1日に新天皇が即位することから、4月27日（土）から5月6日（月）の10日間が休業日となります。そこで、授業時数を確保するために、市教育委員会から土曜日の授業等について通知がありましたのでお知らせします。

<土曜授業等の実施>

- ◇目的 休日の増加による学校の教育活動への影響を減らすため
- ◇内容 ①6月22日（土）、9月7日（土）、12月7日（土）に授業を実施する
②冬休みの1日（12月24日〔火〕）を授業日とする
- ◇その他 ・給食センターが休みのため、給食はありません。
・繰り替え休業日は設けません。

上記①の3日間については、午前中の授業で、昼食なしで下校を予定しています（部活動については実施可とし、その際は、弁当持参）。上記②については、12月23日（月）に通常の授業を実施し、12月24日（火）は2学期の終業式とする予定です（部活動、昼食ともになし）。

<NHK大河ドラマ「いだてん」に関する感動のエピソード>

現在、NHKの大河ドラマ「いだてん」が放送されています。2020年に開催される東京オリンピックに合わせ、それを盛り上げるための企画とします。ドラマの概要は、日本人が初めてオリンピックに参加（1912年）したところから始まり、1964年に日本で東京オリンピックが開催された頃までの話で、日本人初のオリンピック選手となった金栗四三と、東京オリンピック開催に尽力した田端政治の活躍を中心に描かれています。その一人、金栗四三に関して、先日、感動的な話を聞きましたので、その概要を掲載します。

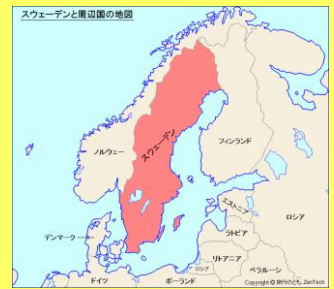


金栗四三

金栗四三は、日本人初のオリンピック選手として、1912年開催のストックホルム大会のマラソン競技に出場しました。しかし、レース途中で日射病などにより意識を失って倒れてしまいます。彼は近くの農家で介抱され、目を覚ましましたが、それは既に競技が終わった翌日の朝でした。このため彼の記録は途中棄権となります。このストックホルム大会のマラソン競技は、最高気温40℃という記録的な暑さの中で実施され、参加者68名のうち約半分が危険となる過酷なレースで、レース中に倒れて翌日に亡くなった選手もいるほどでした。金栗の途中棄権については「マラソン中に消えた日本人」として、当時の地元では話題になったそうです。

それから時が過ぎた1967年3月に、オリンピック・ストックホルム大会55周年を記念する式典に、金栗四三がスウェーデン・オリンピック委員会から招待されます。実は、ストックホルム大会での金栗の棄権については、その意思がオリンピック委員会に伝わっておらず、「競技中に失踪し行方不明」として扱われていました。55周年記念式典の開催に当たって、当時の記録を調べていたスウェーデン・オリンピック委員会がこれに気付き、金栗を記念式典でゴールさせるために招待したのでした。

当時、75歳となっていた金栗はストックホルムへ赴き、競技場をゆっくりと走り、用意されたゴールテープを切りました。その日付は1967年3月21日で、ゴールに合わせて「日本の金栗、ただいまゴールイン。タイム54年と8ヶ月6日5時間32分20秒3。これで第5回ストックホルム・オリンピック大会の全日程を終了します。」とアナウンスされたそうです。この記録はオリンピック史上最も遅いマラソン記録で、今後も、この記録が破られることはないだろうと言われています。金栗はゴール後に「長い道のりでした。この間に孫が5人できました」と話したそうです。



この話を知った時、スウェーデンの人たちの温かい心遣いに、大変、感動しました。55年も前の無名の日本人選手のことを忘れていなかったこと、そして、その選手のために、素晴らしいセレモニーを準備してくれたこと。2020年に、私たちも海外から多くの選手を迎え入れますが、スウェーデンの人たちと同じように、温かな心で迎えたいものです。

来週の予定

月 日	曜日	給食	お も な 行 事
1月21日	月	○	放送朝会 ALT来校 3年三者教育相談（希望者）
1月22日	火	○	カウンセラー・ALT来校 3年三者教育相談（希望者）
1月23日	水	○	ノー部活デー ALT来校 いわき秀英高校合格発表
1月24日	木	○	ALT来校
1月25日	金	○	集金日 3年期末テスト 第3回英語検定
1月27日	日		市新人演奏会（アリオス 8：45～）